

平成 28 年度第 2 回 海岸工学委員会 議事録

開催日時：平成28年11月16日（水）18:00～20:20

開催場所：大阪大学中之島センター 講義室304

出席者：河田，柴山，間瀬の各相談役，青木委員長，岡安副委員長，佐々木幹事長，森，渡部，川崎，重松，高橋，柿沼，水谷の各小委員長，北野主査，荒木，小竹の副小委員長，野口（天野代理），有川，伊藤，入江，太田，大村，岡田，小野，斎藤，作野，比嘉（鈴木代理），津田，福山，松本，宮武，横木の各委員，小笠原，西畑（片山代理），加藤，桐，栗山，後藤，高木，武若，田島，木原（松山代理），山城の各委員兼幹事，原田幹事（副小委員長、オブザーバー）

資料：

- ・ 2016 年度第 2 回海岸工学委員会次第（資料 1）
- ・ パワーポイント資料（資料 2）

■開会

- ・ 青木委員長挨拶
- ・ 相談役出席者の紹介
- ・ 河田相談役挨拶

■委員の交代

- ・ 諏訪委員兼幹事（国総研）→ 加藤委員兼幹事（国総研）

■前回議事録の確認

- ・ WEBに公開済み

■議事前報告（佐々木幹事長）

特になし

■審議・報告事項

1. 海岸工学論文集第63巻発刊準備状況について（森小委員長，原田副小委員長，佐々木幹事長）

(1) 最終審査報告

- ・ 投稿論文数：373編
 - 第 1 段審査通過論文数：305編（+企画セッション（要旨審査のみ）2編）
 - 第 2 段審査通過論文数：296編（不採択2編，辞退7編）
 - 第 2 段審査以降論文数：295編（不採択1編）

海岸工学講演会での講演数：303編（295編＋企画論文無4編＋通常号3編＋CEJ1編）

・ 論文辞退の理由

期日までに執筆不可能4編，用事のため発表できない1編，病気1編，海外転職1編

取り下げに際して，著者全員の自筆署名が入った文書の提出を求めることとした。

(2) J-Stageに関する作業

・ 11/14(月)にJ-Stageでの公開を開始

(3) 論文集査読の現状・検討課題

・ 査読時にフォーマットがあったほうが良いとの指摘があり，対応を検討中。

・ 査読コメントの書き方について，副査は主査に対して，採択にcriticalな条件と，修正を推奨する指摘を明確に示し，主査は著者に対しその区別が分かるようとりまとめる。

・ 採択条件について主査と副査の意見が割れる場合には，主査の意見が優先。

・ 2重投稿か懸念される論文が3件あり，ガイドラインを作る方向で検討中。

・ 多数の問合せの対応に時間を要しており，WebのFAQの充実を図りたいので，疑問点はcec宛に問合せして頂きたい

(4) 論文査読方針

・ 日本語と英語で著者名や順番が同一か，確実に確認して欲しい。

・ 題目や著者の変更は原則不可（特に，著者の追加は不可）。ただし著者の所属が変更になった場合は，web上で自由に変更可（著者所属は変更しなくても問題はない）。

・ 2次査読時の査読コメントを踏まえ，著者が論文としての最低限の質を確保できない，と判断した場合に限り，取り下げを認める方向で検討中。

・ 査読者の負担軽減と査読の質向上を目的として，副査の人数増を検討中。

→ 内規細則の改訂が必要となる。その他の項目にて審議する（その他の項目参照）。

・ 査読意見に対する著者の対応について，査読対応表の雛形を作ってはどうかとの意見が出た。

・ 来年度も現状の方針を維持。ただし，札幌開催で時期が繰り上がるため，スケジュール調整が必要。

(5) 著者負担金と論文集DVD価格

・ 今年度の著者負担金は例年通り，36,000円（税込み）の予定。

・ 著者負担金の未払いは，学生が投稿者登録し，卒業後に連絡が取れなくなるケースが多い

→ 投稿者は請求書の送付先となるので，学生以外として欲しい旨をweb投稿システムに明記する。

2. 海岸工学論文賞および同論文奨励賞について（佐々木幹事長）

・ 従来通りの選考手続きで，候補論文が選考された旨の説明があり了承された。

・ 海岸工学論文賞は 9 編の審査対象論文から 3 編が候補として選考された。

・ 奨励賞は 5 編の審査対象論文から 3 編が候補として選考された。

・ 該当論文が下記の通り承認された。

[海岸工学論文賞]

論文番号：163

題目：直立壁に作用する段波波圧の推定方法

著者：木原直人・甲斐田秀樹

論文番号：186

題目：防波堤港内側マウンド被覆ブロックの耐津波安定性に及ぼす上部工形状の影響

著者：三井順・久保田真一・松本朗・半沢稔

論文番号：212

題目：大阪湾沿岸の地形改変が水・物質循環に及ぼす影響

著者：中谷祐介・西田修三・原巧憲

[海岸工学論文奨励賞]

論文番号：220

題目：人工塩性湿地堆積物中における難分解性有機炭素の動態

筆頭著者：西尾直人（共著：遠藤徹・矢持進）

論文番号：274

題目：複数地域での同時被災を考慮した高潮災害の集積リスク評価手法に関する研究

筆頭著者：辻田大揮（共著：安田誠宏・篠原瑞生・森信人・間瀬肇・高島大輔）

論文番号：290

題目：合成開口レーダによる海岸地形情報の抽出

筆頭著者：行川修平（共著：松本顕政・武若聡）

3. 海岸工学論文集の将来検討について（北野主査）

- ・副査によるフォーマットのチェックがますます重要になっている。
 - ・採択後の最終提出物は、今年度から論文原稿PDFのみとなった（書誌情報ファイル不要）。
 - ・体裁の完成度が低い論文1編を組版で対応。費用は15,000円ほど（昨年度は0件）。
 - ・企業広告を増やす試みを実施。
 - ・会場でのDVD購入者向けのおまけとしてつけるUSBは、今年度は五洋建設に製作頂いた。
 - ・次年度にUSBを担当頂く企業を募集中
 - ・企業展示の応募も増加した
 - ・広告収入は委員会で使用できるのか？
- 余剰金は学会事務局経費として3割差し引いた後、委員会の次年度予算として使用できる。
- 委員会活動費として重要な収入源であるので、今後も継続していきたい。

4. 海岸工学講演会企画セッションについて

(1) 第63回海岸工学講演会企画セッション（重松小委員長）

テーマ：東日本大震災と環境

オーガナイザー：重松，日向

〔企画A〕4編（5編）← 採用せず

〔企画B〕2編（2編）← 採用

〔企画C〕3編を採用

〔招待講演〕

1) 平吹喜彦（東北学院大学）

「特集 東日本大震災と砂浜海岸エコトーン植生：津波による攪乱とその後の回復」

2) 金谷 弦（国立環境研究所）「干潟の環境インパクト」

(2) 第64回海岸工学講演会企画セッションについて（加藤委員兼幹事）

・「流砂系の総合的な土砂管理と海岸保全」というテーマで検討を進めていく。

・想定される発表

土砂管理のためのモニタリング・予測の技術・事例（海岸部を含むもの）

土砂管理計画の事例（海岸部を含むもの）

総合的な土砂管理のための海岸での技術・事例（養浜，サンドバイパスなど）

←以上に付き，承認された。

5. 第63回海岸工学講演会（大阪）の実施状況（荒木副小委員長）

実行委員会：間瀬〔実行委員長〕（京大），青木，荒木〔幹事〕（阪大），後藤・森・原田・五十里（京大），重松・遠藤（大阪市立大），高橋・安田（関西大），内山（神戸大），柿木（神戸高専），川崎（株）ハイドロソフト）

後援：国土交通省近畿地方整備局，大阪府，大阪市

期間：2016年11月16日（水）～18日（金）

講演会：大阪大学中之島センター（北区中之島）

懇親会：11月17日（木）19:00～21:00

会場：中之島ソーシャルイートアウェイク

会費：7,000円

見学会：Aコース：大阪港・神戸港。11月15日(火)12時50分に神戸地方合同庁舎に集合。

Bコース：津波・高潮ステーションおよび木津川水門。13時15分に新大阪駅に集合。

両コースとも，17時に講演会会場に到着する（前日シンポに間に合うように）。

〔指摘事項〕

・NHKの取材について → その他の項目で審議（その他の項目参照）

6. 第63回海岸工学講演会前日シンポジウムについて（高橋小委員長）

・11月15日（火）17:00～19:30に大阪大学中之島センターで開催した。

・参加者数は目標100名に対して106名

・「津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会」の報告として実施した

- ・概ね好意的な意見が多く、小委員会の運営方針が適切と判断された一方、他分野からの様々な考え方を取り入れることが課題。

7. 第64・65回海岸工学講演会について

(1) 第64回海岸工学講演会（札幌）の準備状況（渡部小委員長）

実行委員会：山下〔実行委員長〕（北大），渡部・猿渡（北大），宮武（函館高専），
中島・木岡・大塚（寒地土研）

後援（予定）：北海道開発局，寒地港湾研究技術センター，札幌市

日程：2017年10月25日（水）～27日（金）

会場：TKP札幌駅カンファレンスセンター（JR札幌駅北口徒歩2分，旧代ゼミ）

懇親会会場：京王プラザホテル（予定）

見学会（案）：開催時期の気候を勘案して再検討中

予算：札幌市会議助成予定

(2) 第65回(2018年度)の海岸工学講演会の開催地について（太田委員，柿沼小委員長）

- ・2018年度は当初は四国地区で検討したが，対応が困難であることが判明したため，九州開催での検討をお願いし，鹿児島県開催で検討を始めたが，適切な時期の会場候補に空きがなく，現実的な費用での会場の確保が既に困難な状況が判明し，中国地区での検討をお願いした。

・中国地区での開催体制

実行委員会：黒岩〔実行委員長〕（鳥取大），太田・金・澁谷（鳥取大）

後援：国交省中国地方整備局，鳥取県，鳥取市または米子市 【予定】

日程：2018年11月14日（水）～16日（金）

- ・中国地区で開催する案として，とりぎん文化会館（鳥取市）と米子コンベンションセンター（米子市）の2案が提示された。

- ・各会場の優劣（駅からのアクセス，座席数，交通の便，予算など）について比較説明された
- ・会場の広さについて，机付きで60数名程度の広さがあれば十分で，必要があれば机無しで椅子だけ増やすなどの対応が可能との指摘があった。
- ・本日の議論を参考に，実行委員会で協議決定頂くこととなった。

8. 第52・53回水工学に関する夏期研修会（Bコース）開催について

(1) 第52回（2016年度）水工学に関する夏期研修会の実施報告（小笠原委員兼幹事）

期間：8月22日（月）～23日（火）

会場：秋田大学手形キャンパス

テーマ：東日本大震災後の津波防災(海岸・港湾コース)

参加者数：74名

参加者のアンケートでは，講義はおおむね好評だったが，参加費が高い，レベルが高過ぎる，懇親会をやってほしい等の意見があった。また，今後取り上げてほしいテーマとして先進技術，最新の事業紹介などがあった。

冊子を電子化する要望もあったが、研修会のテキストとしての位置付けから冊子版で継続する。

(2) 第53回（2017年度）（幹事：海岸工学委員会）の準備状況について（青木委員長）

実行委員：青木・荒木（阪大）【海岸工学】，竹原（近大），入江（阪大）【水工学】

日程：2017年8月31日～9月1日（予定，大学院入試日程が懸念材料）

場所：大阪大学吹田キャンパス工学部講義室（予定）

テーマ：維持管理などを検討中．今年度のアンケート結果を踏まえて，基礎的な内容を盛り込めるように計画する

9. Coastal Engineering Journalについて（渡部小委員長）

- ・ Impact Factor 2.5 から 0.70 へ（2011津波特集号の貢献期間終了）

対策として，特集号の定期的な発刊に取り組んでいる

- ・ 特集号の編集状況

フィリピン台風ハイヤン特集号（東大田島教授） 10編で出版

震災5周年特集号 18編/38編の全文を審査中（13編出版の見込み）（関大高橋教授）

2017年はClimate Change特集号（京大森准教授） 13編/14編のアブストラクト採択

2018年はEstuarine hydrodynamics and morphodynamicsをテーマに準備中（東北大田中教授）

2019年は粒子法をテーマに準備中（京大後藤教授）

- ・ CEJ の出版社との再契約等について

World Scientific社（以下，WS社）との契約は19年前にさかのぼり，当時は電子媒体を想定していなかったこともあり，契約見直しを検討している．他社からの勧誘もあったことから，両社に条件を提示してもらった．その内容が紹介され意見交換がなされた．

委員からは次の指摘がなされた

所属機関が包括契約を結んでいる場合，CEJの購読者としての取り扱いについて確認しておく必要がある

IAHRにヒアリングしてみてもどうか

契約解除には6カ月以上前の通知が必要であり，来年6月の委員会審議では間に合わない出版社を変更する場合には，大掛かりな作業が必要になることから，変更開始から完了までの体制も含めて考えておく必要がある

CEJ小委員会（11/17開催）で協議を始めるので，ご意見があれば頂きたい

10. 研究小委員会の活動報告

(1) 広報（川崎小委員長）

- ・ 活動状況について，Web情報の充実，アウトリーチの充実について報告があった．
- ・ 本の紹介は10回目は準備済み．11回目を12月頃に予定．
- ・ 過年度課題として討議集の扱いをどうするか引き続き検討を行う．

(2) 沿岸域（重松小委員長）

- ・プロジェクト「環境問題のその後」において、環境要因と研究アプローチについて検討する。
- ・12月16日に大阪市立大学文化交流センターで行われる沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウム「瀬戸内海環境の将来像を描く」を海岸工学委員会が後援することが了承された。参加申込が殺到している模様。

(3) 津波（高橋小委員長）

- ・データフォーマットや最終アウトプットを各ワーキンググループで検討中。成果イメージについて説明がなされた。
- ・第63回(2016年度)海岸工学講演会の前日シンポジウムの開催のほか、講演会期間中に小委員会を予定している。

(4) 波動モデル（柿沼小委員長）

- ・研究集会「海洋・海岸における波動の解析モデルの展望」を12月17～18日に九州大学応用力学研究所で開催する。
海岸工学委員会主催とすることが了承された。
- ・学生向けの専門図書出版を計画中

(5) 減災アセスメント（岡安小委員長）

- ・土木学会全国大会において、研究討論会を開催するとともに、小委員会にてケーススタディ地区の選定や検討内容の整理を行った。

(6) 地域研究（青木委員長兼小委員長）

- ・9月18日にcecomメーリングリストでアナウンスした。5つのWG（瀬戸内／中下、関西／荒木、東海／富田、北陸／榎田、九州／齋田）が立ち上がっている。

(7) 地盤材料（水谷小委員長）

- ・2回小委員会を行うとともに、土木学会全国大会で研究討論会（参加者62名）を開催した。
- ・海岸工学講演会開催中（第3回）に続き、1/10に第4回を予定
- ・地盤工学と水理学の各分野の情報交換を中心に進めている

11. その他

- ・濱口悟陵国際賞顕彰事業の後援について（河田相談役、青木委員長）
河田相談役より顕彰事業の紹介があり、政府を挙げて世界的な賞にしていきたいので、引き続き海岸工学委員会の支援を要請する旨のお願いがあった。
- ・マスコミ対応について（佐々木幹事長）
取材申込はWebを通して受け付けることとすることが承認された。
以下、委員会での指摘
本人や学会以外に、会場の了解も必要であることに留意が必要との指摘があった
申込期限の設定において、取材受入れを肯定するか、否定するかで対応が異なるとの意見があった

受入れのスタンスをどうするかについては十分な議論が必要。当面は幹事長がその都度、対応を考える必要があるとの指摘があった

・内規および内規細則の改訂について（佐々木幹事長）

実態と整合しない部分を含め、以下の通り改訂することが提案され、承認された。

「小委員会の設置には、調査研究部門担当理事の承認を得るものとする。」は実態に合わないので削除

小委員会一般に関する設置時のルール（小委員長は海岸工学委員会の委員に限るなど）を明示する

論文編集小委員会の人数を20人→30人に増員する → 了承

・APAC2017について（武若委員，佐々木幹事長）

フィリピンにて2017年10月19日～21日に確定しているはずであるが、最終確認の問合せに対して回答が無い状態。引き続き様子を見守る。

・Journal of JSCEについて（森小委員長）

土木学会の論文集編集調整会議で今後について各小委員会での検討が指示されている

CEJとは競合しないと考えられる。

「特集などを随時企画し、現状を維持して粛々と発行していく」の方向で検討，回答する。

記録（小竹）